

十一月の保育

生活訓練

倉橋 惣三

生活訓練は常のこと、平生のことである。訓練のための生活といふ格別のごとでなく、遊び、實際、なまのまゝの生活の間に於て、謂はゞ、いつといふこともなく、いつも行はれてゐる訓練である。そこに、われ等の主張したい生活訓練の眞義があるのである。

しかしまた、生活そのことの中に、時折り特別な生活の時間があり、場がある。そうした時にも素よりその生活訓練は忘れられてはならないし、恐らく、或る特別な訓練の機会が與へられるであらう。その一つが、式の日の訓練である。

幼稚園の式日は、幼稚園によつていろいろである。教育令の中にも、國民學校の如く、是非行へど書いてさへない。しかし、原則として國民學校に準すべきは常識であらう。たと幼いといふこと、その生活の家庭中心なことから、或る種の日は、わざと幼稚園で出席させないで、家庭の式に任せるといふ考へ方もあり得

よう。たとへば正月元日の如きその一例である。四方拜といふ式日としては、當然他の大節に同じであるべきであるが、正月元朝の祝ひとして、家庭各々に於て、充分心を籠めて行はれる。殊に、幼い子こそ、年を重ねる正月元朝の家庭の祝ひの一つの中心であつたりする。ゆつくり朝の家庭拜賀式に加はらせた方がいゝといふ考へ方である。がまた、それはそれとして、幼稚園でもその上に公の式をするに正しい主張もうなづかれる。たゞ、その場合、式の時間に就ては、他の式日の時と自ら異つた注意配慮もいることであらう。

お正月といつた、最も家庭的な日は兎も角くも、一體に國の式日は、幼稚園でも公の式を擧ぐべきことといふまでもない。それが學校といつしよである場合、獨立である場合の別は、それ々の幼稚園の事情によつて異なるであらう。幼稚園は幼稚園らしくといふのも一つの主張であるし、式のことであるから全校いつしよに専ら嚴肅にといふのも一つの主張である。

ところで、斯うしたその幼稚園々々の主張には茲では觸れな

いとして、苟も式である以上、共通の訓練の存在することを考へて見たい。

その第一は嚴肅感といふことである。幼稚園に平生は、必ずしも嚴肅といふことが主になつてゐるものでもない。或は快活に寛瀾に、楽しく面白い世界である。勿論斯うした中に、きまり／＼は守られもし要求されるが、終始嚴肅を持しつゞけるといふものではない。が、式の日こそ、その平生に於て與へられない嚴

肅感の訓練が出来るのである。

殊に、皇室に對し奉る作法の如き、幼兒にも、その正しさと、つゝまじさを破らしてはならない。御眞影拜賀の場合も勿論、國歌齊唱の作法、遙拜の敬禮、一點の不法法をゆるしてはならない。それが出来ないとならば、式にしない方が却つていい。

第二は靜肅である。言葉を發しないこと、四肢を濫りに動かさないこと、殊に失笑をしないこと、況んや騒然たらぬこと。之れは式場に入る始めから、式場を去り終るまで、守られなければならない。

第三は立坐の行動である。立つ時は一齊に、坐する時は一齊に、決して勝手をゆるさない。斯うした行儀作法は、平生と雖も練習せられる必要があるが、式こそその最も大切な日である。この爲には式に先立つて豫行練習をすることが必要であり、習熟させるどころに、訓練の大きな効果さへある。式は必ず豫行演習をしなければならぬ。謂はゞ、それが式の式たる重んじ方にもなるのである。

第四は整頓である。之れ亦平素の訓練の中にあることであるが、式場に於て一段ときちんと行はなければならない。行進の列、着席の列、一切亂雜をゆるしてはならない。

以上、幼兒として、むづかしい要求のようにも思はれるかも知れないが、斯くてこそ式であり、式にする訓練でもある。又、少くも二年保育からは、一通りのことば、出来るのである。

式は形であるが、その形こそ言葉でいへないもの、説明で與へ得ないものを與へ得るのである。その意味で、式こそ心もちである。形だけの形では決してない。外部の齊整ではあるが、それが實は内部の訓練になつてゐるのである。又、それだからこそ、外部の一つ一つの形をもゆるがせに出来ないものである。即ち式こそ、形から内への途であるが、幼兒にも分る程度に於て、その式の意味を諒めよく傳へられなければならぬ。たゞ何んのことだか分らない式では、眞の訓練にはなり得ない。たゞ、それだけでは出来ない訓練が、式の形となつてゐるのもある。

自由遊戯

上 遠 文 子

木々も紅葉して、あたりの自然の美しさに私達も今更の様にうつりさせられます。

紅葉と子供 落葉と子供 はら／＼と散る落葉をかきあつめてマ、ゴトの御馳走に、子供達はゆく秋をまた楽しいものにしてあそびたわむれてゐます。自と自然に取まかれ又、引つけられる此頃は 落葉等での遊びに心引かれるものです。

むかで、龜の子作り。先づ百足。これは藤の葉柄の落ちたもので作ります。夏頃より風の強い日などはぼつ／＼落ちてゐますが、やはり此頃のものはずつかり枯れて作り易くなつております。作り方は左圖をこら入下さい。はじめ二本そろへます。互ひ違ひにこの様にして編んでゆきます。圖は解り易い様子を離しましたが